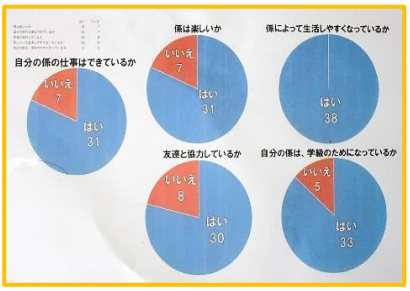
岡崎市立六ツ美南部小学校　授業研究②　　令和４年　６月２３日

対話でつなぐ授業　～個々を認め合うチーム学習～

岩瀬　竜弥

指導員訪問③　６年　特別活動「第２回 SKILL UP 会議」後藤　元輔　教諭



「卒業までに力を付ける」「苦手克服、中学校で生かす」と願いを込めて子供たちが設定した後藤学級の級訓『SKILL UP』。学級がスタートして３ヶ月が過ぎ、学級の現状を一度見つめ直し、困り感を共有しました。今回、係活動に視点を絞り、学級会を通して課題の中から必要な目標を見つ出し、合意形成によって取り組むべき姿を明確にする姿があったかどうかです。

本時では、係活動に対するアンケートの結果をもとにもっと生活しやすい学級を目指して係活動をどうすべきか学級会を開きました。チームでよさや問題点を出し合った後、学級会へ。

＜授業記録より一部抜粋、編集＞

（チーム学習①のあと）学級会形式で

－＜略＞－

Ｃ７：周りを見ていない。**協力**できていない。

Ｃ８：体育館に行く時にいつもしゃべっている。止まらないと。時間がなくなる。

－＜略＞－

Ｃ11：朝文句を言いに来る人への対処ができない。

－＜略＞－

Ｃ32：みんなで整頓ができるようにしたい。整頓係が直さなくても。

－＜略＞－

●Ｔ37：この後上に貼る（級訓の横）って思った時に、例えば誰か一人だけ、僕だけにしか当てはまる、と言うのだとどう？

Ｃ38：それだとその人だけの目当てになる。

Ｃ39：みんが、あ～ってなるように。

Ｃ40：全部の係でこれは必要なやつ。

－＜略＞－

Ｃ42：Ｃ32とＣ36を**くっつけて**、言われなくても当たり前にする。

－＜略＞－（チーム学習②のあと）

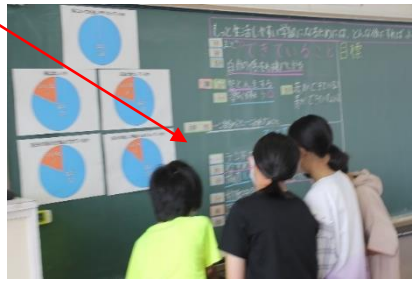
Ｃ52：私はＣ50とは反対で、周りを見て**協力**ってできるようになるためには、癖っていうものが大事だから、癖にするためには当たり前に物事ができるようにしないといけないと思う。私はＣ42がいい。

●Ｔ53：これできたら係いる？

Ｃ54：**いらない**。

Ｃ55：でも**必要な係**もある。

途中で赤（自分の係に関して）、青（協力して）の視点で書記に線を引かせ、●Ｔ37で「協力」の視点へと広げようと立ち止まることで、Ｃ42の合意形成により自分たちで考えをまとめていく姿へとつながりました。



協議会では、Ｃ７のような少数派の声の扱い、学級会での教師の出方の賛否、さらに「係活動」と「当番」の違いなど学級活動の神髄まで踏み込みました。

指導員から「議論する学級会へ」「教師の出＝10－学年」「学級会の意義やよさ」「合意形成の意味」等ご指導いただきました。

よりよい学級にしたいと願い、最後まで級訓を意識する子供たち。Ｃ52の発言に私ははっとさせられました。そして●Ｔ53で揺さぶります。Ｃ54、Ｃ55など多くのつぶやきが。当たり前にできることは「当番活動」で、創意工夫、充実向上を目指す活動こそ「係活動」であり必要なのだと気づいたのです。

これから、どんな係が誕生するのか楽しみですね。